

この噂がエルサレムにある教会にも聞こえてきたので、教会はバルナバを遣わし、アンティオキアまで行かせた。バルナバはそこに到着すると、神の恵みを見て喜び、そして、揺るぎない心で主にとどまっているようにと、皆を励ました。バルナバは立派な人物で、聖霊と信仰とに満ちていたからである。こうして、多くの人が主へと導かれた。それから、バルナバはサウロを捜しにタルソスへ行き、見つけ出してアンティオキアに連れ帰った。二人は、丸一年の間その教会と一緒にいて、大勢の人を教えた。このアンティオキアで初めて、弟子たちがキリスト者と呼ばれるようになった。（使徒11：22～26）

原始エルサレム教会は、ステファノの事件を契機に迫害を受けるようになり、信者たちは近隣のフェニキア、キプロス、アンティオキアなどに逃れて行った。彼らは、逃れた地で御言葉を伝えたが、ユダヤ人以外には語らなかった。ところが、キプロス島やキレネからシリアのアンティオキアから来た人たちは、そこで、ギリシア語を話す人々にも語りかけ、キリストの福音を知らせた。主の御手が働いたので、主イエスを信じる人が増えてきた。異邦人が信仰を受け入れ、アンティオキア教会が誕生したのである。

異邦人を含む教会の誕生がエルサレム教会に聞こえて来たので、エルサレム教会はバルナバをアンティオキア教会に遣わした。彼はアンティオキア教会に到着すると、神の大きな恵みを見て喜び、揺るぎない心で信仰を固く保つように励ました。バルナバは人格的に優れ、聖霊と信仰に満ちていた人であった。彼の人格と信仰によって、多くの人が主へと導かれ、アンティオキア教会は、更に大きく成長した。ユダヤ人と異邦人で混成するアンティオキア教会は、後の異邦人宣教に大きな支えとなる教会になっていった。

「それから、バルナバはサウロを捜しにタルソスへ行き、見つけ出してアンティオキアに連れ帰った。二人は、丸一年の間その教会と一緒にいて、大勢の人を教えた。」この出来事はサウロにとって重要な意味を持っていた。サウロはイエス信者を迫害していたので、エルサレム教会では受け入れられなかったが、バルナバの執成しによって、サウロの回心が認められた。ところが、サウロは、ユダヤ教徒たちから裏切り者として、命を狙われていたので、彼を彼の故郷タルソスへ逃がした。サウロはタルソスで悶々と過ごしていたに違いない。バルナバはその彼を探し出し、アンティオキアに連れ戻し、一年間、共に、福音宣教に携わった。バルナバがサウロを引き出し、福音を学び、確信を得るための時を与えた。彼の執り成しと引き出しが、大宣教者パウロを育てたのである。また、ダマスコのアナニアは、盲目になったサウロに福音を説き、目が開かれ、洗礼を授けてくれ、決定的な回心を与えてくれた人である。アナニアとバルナバはサウロの大恩師である。

成長したアンティオキア教会で、初めて「キリスト者」と言われるようになった。キリスト者とは「キリストに属する者」という意味で、自分たちをそう呼んでいたからである。

その頃、多くの預言者たちがエルサレムからアンティオキアに下って来た。その中の一人、アガボという預言者が、世界中に大飢饉が起こると霊によって予告したが、クラウディウス帝の治世47年～48年にパレスチナで起こった。アンティオキア教会は力に応じて、エルサレム教会の困窮する信者たちのために、援助の品を送ることを決め、バルナバとサウロに託して、援助品を送り届けた。諸教会において、ユダヤ人と異邦人に限りなく、このような支援関係が生まれていたからである。